

セキュリティガイドライン

1 利用者との責任分界点

当社の責任

当社は、以下のセキュリティ対策を実施します。

- サービスのセキュリティ対策
- サービス内に保管されたお客様データの保護
- サービスの提供に利用するミドルウェア、OS、その他インフラのセキュリティ対策

お客様の責任

お客様は、以下のセキュリティ対策を実施する必要があります。

- 各利用者に付与されたパスワードの適切な管理
- アカウントの適切な管理（登録、削除、管理者権限の付与など）

2 データ保管先

- お客様からお預かりしたデータは、以下のサービスに委託する可能性があります。なお、委託先は、当社の定めた基準を満たした委託先を選定し、適切に当社が管理します。
 - Amazon Web Services
- お客様からお預かりしたデータは、以下の国に保管される可能性があります。
 - 日本

3 装置の安全な処分

- 当社のお客様が利用した装置を廃棄する際には、適切な廃棄専門業者に依頼して確実な廃棄を行います。
- IaaS 等のクラウドサービス環境を利用している場合は、クラウドサービスプロバイダーに装置の適切な処理を確認します。

4 暗号化の状況

- データベースに保管される、お客様の各種情報（氏名、メールアドレス、各機能で利用するデータなど）は、暗号化されずに、適切なアクセス権のもとで保管されます。但し、パスワードは、不可逆暗

号化(ハッシュ化)された状態で、データベースに保管されます。

- お客様の端末と、システムとの間のインターネット通信は、TLS 通信(SHA256)によって暗号化されます。

5 マニュアルの提供

- お客様が利用できるマニュアルは、Web サイトで閲覧することが可能です。

6 ログのクロックに関する情報

- サービス内で提供されるログは、タイムゾーン JST(UTC+9)で提供されます。
- ログの時間は、信頼できる NTP サービス (Amazon Time Sync Service 等) と同期しています。

7 脆弱性管理に関する情報

- 当社は、システムで利用している OS、ミドルウェア等に関する脆弱性情報を、定期的に収集しています。
- システムで利用しているコンポーネントに対する脆弱性パッチが公開された場合は、社内で適用時期等の検討を行い、適用する場合は、テスト環境での検証を経た後、速やかに適用されます。

8 開発におけるセキュリティ情報

- 本サービスの開発は、社内の開発メンバーのみがアクセス可能な社内の開発標準に従って実施されます。
- 本サービスの開発は、外部の会社に委託せずに、社内の開発メンバーのみで行います。

9 インシデント発生時の対応

- お客様に大きな影響を与えるセキュリティインシデント(データの消失、長時間のシステム停止、情報漏洩等)が発生した場合は、インシデント発生後、72 時間以内を目標とし、障害報告の Web ページで通知します。
- 情報セキュリティインシデントに関する問合せは、サービス毎のカスタマーサポートにより 24 時間 365 日受け付けています。

10 適用法令

- お客様と当社との間の契約は、日本法に基づいて解釈されるものとします。

11 情報の管理

- お客様から預かったデータを適切に保護するために必要なセキュリティ対策を実施することは、当社の責任です。ログデータを含む契約者データは、不正なアクセスや改ざんを防ぐため、当社の一部の人間しかアクセスできない、限られたアクセス権のもとで保管します。

12 認証

- 当社は、情報マネジメントシステム認定センター(ISMS-AC)が運営する ISMS 適合性評価制度における、ISMS 認証を取得¹しています。
- 当社は、情報マネジメントシステム認定センター(ISMS-AC)が運営する ISMS 適合性評価制度における、ISMS クラウドセキュリティ認証を取得²しています。
- 当社は、BSI グループジャパン株式会社が実施する、ISO/IEC 27018 の審査を受審し、ISO/IEC27018 の導入ガイダンスを考慮した ISMS を実施していることを認証されています。

【ISMS クラウドセキュリティ認証登録範囲】

Active!gateSS,Active!vaultSS,Active!driveSS,Active!world,mails サービスの提供に係るクラウドサービスプロバイダとしてのデータセンタ及びピアクラウドサービスプロバイダ上で稼働する仮想システムの運用・保守、及びアマゾンウェブサービスのクラウドサービスカスタマとしての利用に係る ISMS クラウドセキュリティマネジメントシステム

【ISO/IEC 27018 認証登録範囲】

メールシステム及びメールセキュリティに関するクラウドサービスの提供及び運営

13 外部クラウドサービスの利用

- 当社では、次に示す機能を運用するために、外部のクラウドサービスを利用しています。

クラウドサービス	機能	運営会社	情報
AWS	インフラ構築,運用	Amazon	お客様データ、システムログ 等

¹ https://isms.jp/lst/ind/CR_IS_x0020_586579.html

² https://isms.jp/isms-clc/lst/ind/CR_CLOUD_x0020_681574.html

改訂履歴

版	改訂日	改訂内容
1.0	2017/10/23	初版発行
2.0	2018/1/22	データ保管国を国内・海外に分けて記載
3.0	2018/10/17	ログのクロックに関する情報を変更
3.1	2019/04/12	インシデント通知について目標時間を設定
4.0	2019/9/17	認証情報、外部クラウドサービスの利用について追記
4.1	2019/10/7	セキュリティインシデントの例に情報漏洩を追記
4.2	2019/11/11	データ保存先の国について編集
4.3	2023/6/13	データ保存先の国について編集。情報の管理を追記。認証登録範囲追記